小林製薬株式会社

あったらいいなをカタチにする

2021年12月期第3四半期
決算説明資料

2021年10月28日

グループ統括本社　広報・IR部長
中村　仁弥

では広報・IR 部、中村から資料に沿って概要をご説明いたします。

2021年第3四半期 連結業績　1／17ページ

	2020年		2021年					
	7-9月	1-9月	7-9月			1-9月		
	金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	対前期（%）	利益率（%）	金額（百万円）	対前期（%）	利益率（%）
売上高	38,869	105,049	40,606	+4.5%	-	107,658	+2.5%	-
売上総利益	22,831	61,259	23,788	+4.2%	58.6%	63,409	+3.5%	58.9%
営業利益	9,295	19,515	9,186	▲1.2%	22.6%	19,426	▲0.5%	18.0%
経常利益	10,013	21,042	9,925	▲0.9%	24.4%	21,016	▲0.1%	19.5%
当期純利益	7,040	15,258	7,002	▲0.5%	17.2%	14,883	▲2.5%	13.8%
EBITDA※	10,135	22,637	10,355	+2.2%	25.5%	22,885	+1.1%	21.3%

※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

では１ページの連結業績をご覧ください。

まず９月までの累計の売上ですが、国際事業が好調でトータルでは増収となりました。しかし、利益率の高い国内が減収となっているために、プロダクトミックスの影響で営業利益は微減となりました。これらの数字は連結での累計では、ほぼ想定どおりです。

売上増減の主な要因

2／17ページ

国内事業

※( )の数字は1-9月売上の対前期

- インバウンド需要の減少(▲11億)
- 除菌衛生関連品の需要は前期に比べ減少(▲11億)
- 外出自粛減による需要減(▲7億)
- カイロ好調(+4億)
- 新製品の貢献(+36億)

国際事業

- 米国　　:カイロ好調とAlva社連結で増収(+35億、うちAlva社+23億)
- 中国(本土):前期ロックダウンの反動とカイロ好調で増収(+15億)
- 中国(香港):内需好調で増収。(+2億)
- 東南アジア　:ワクチン発熱需要により熱さまシート好調で増収。(+1億)

通販事業

- スキンケア不調で減収(▲0.4億)。

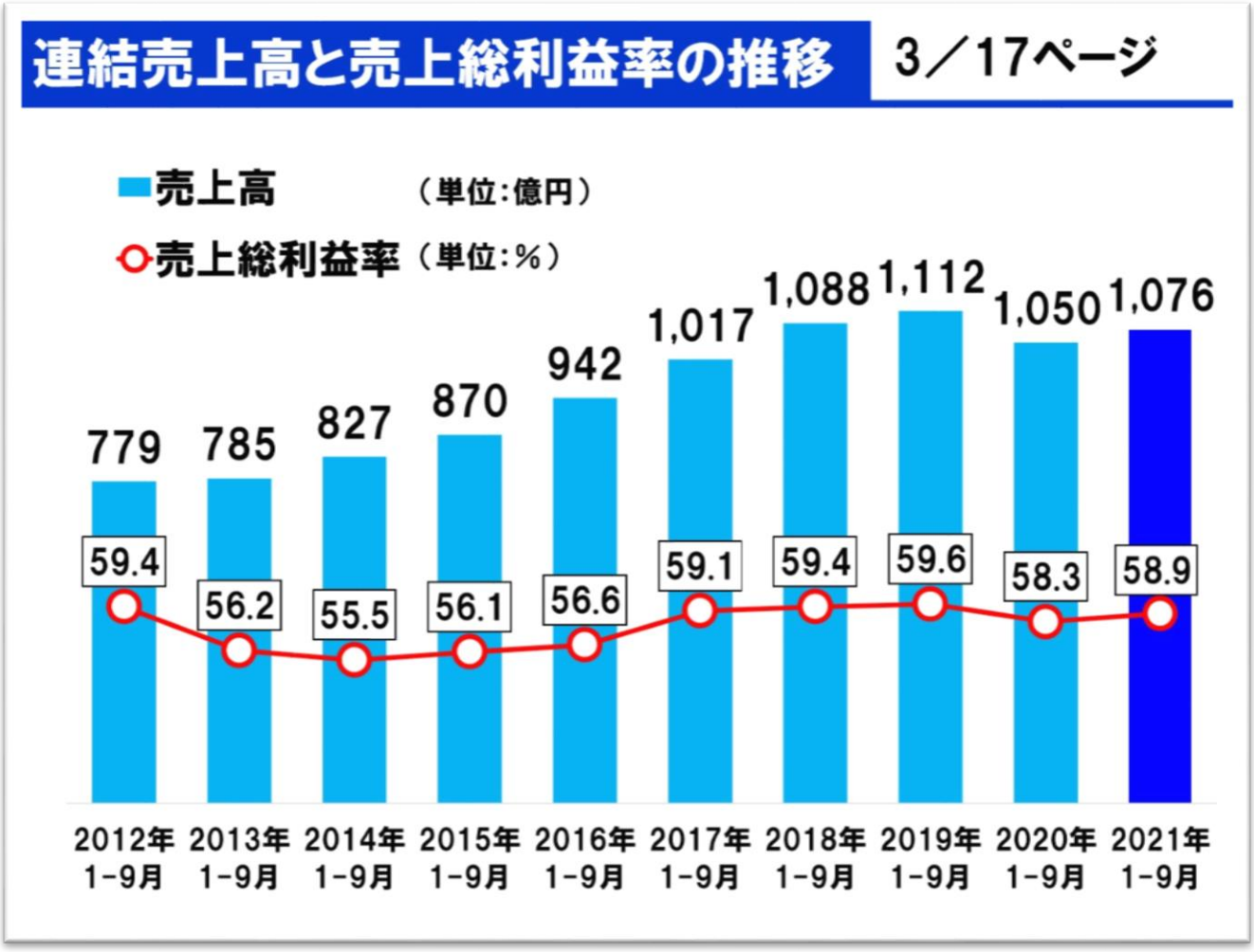
2 ページの売上増減の主な要因をご覧ください。

まず国内事業ですが、前年の第 1 四半期には残っていたインバウンド需要の消滅影響でマイナス 11 億円。

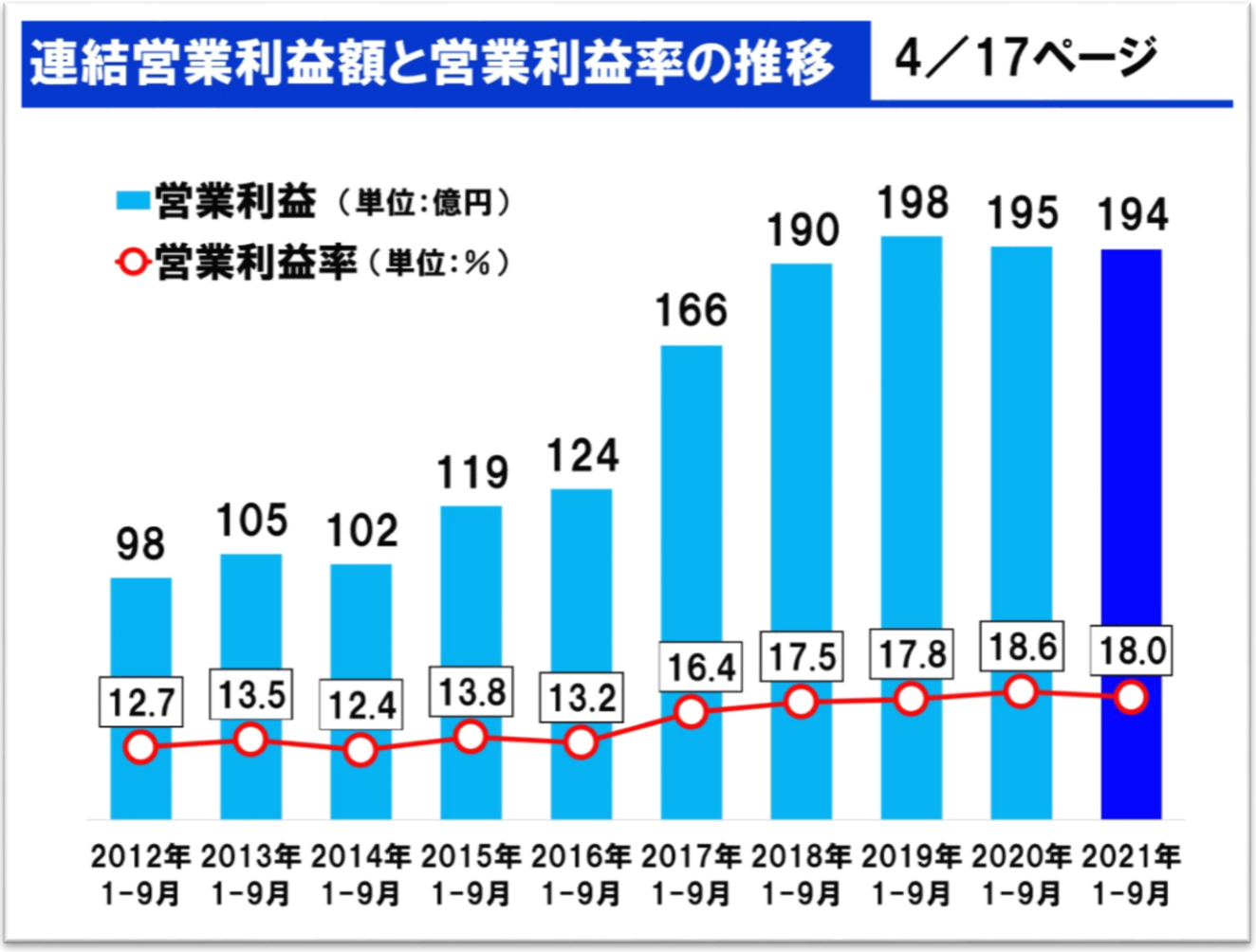
また除菌衛生関連品ですが、昨年 2 月のコロナ発生直後の特需の消滅影響でマイナス 11 億円となっています。さらに外出自粛による飲み会の中止で、ブレスケアやアルピタン等が影響を受け、マイナス 7 億円となりました。しかしこれらのコロナ影響は想定どおりで、トレンドの変化はありません。

一方で、カイロが好調でプラス 4 億円、新製品もプラス 36 億円の貢献をしました。

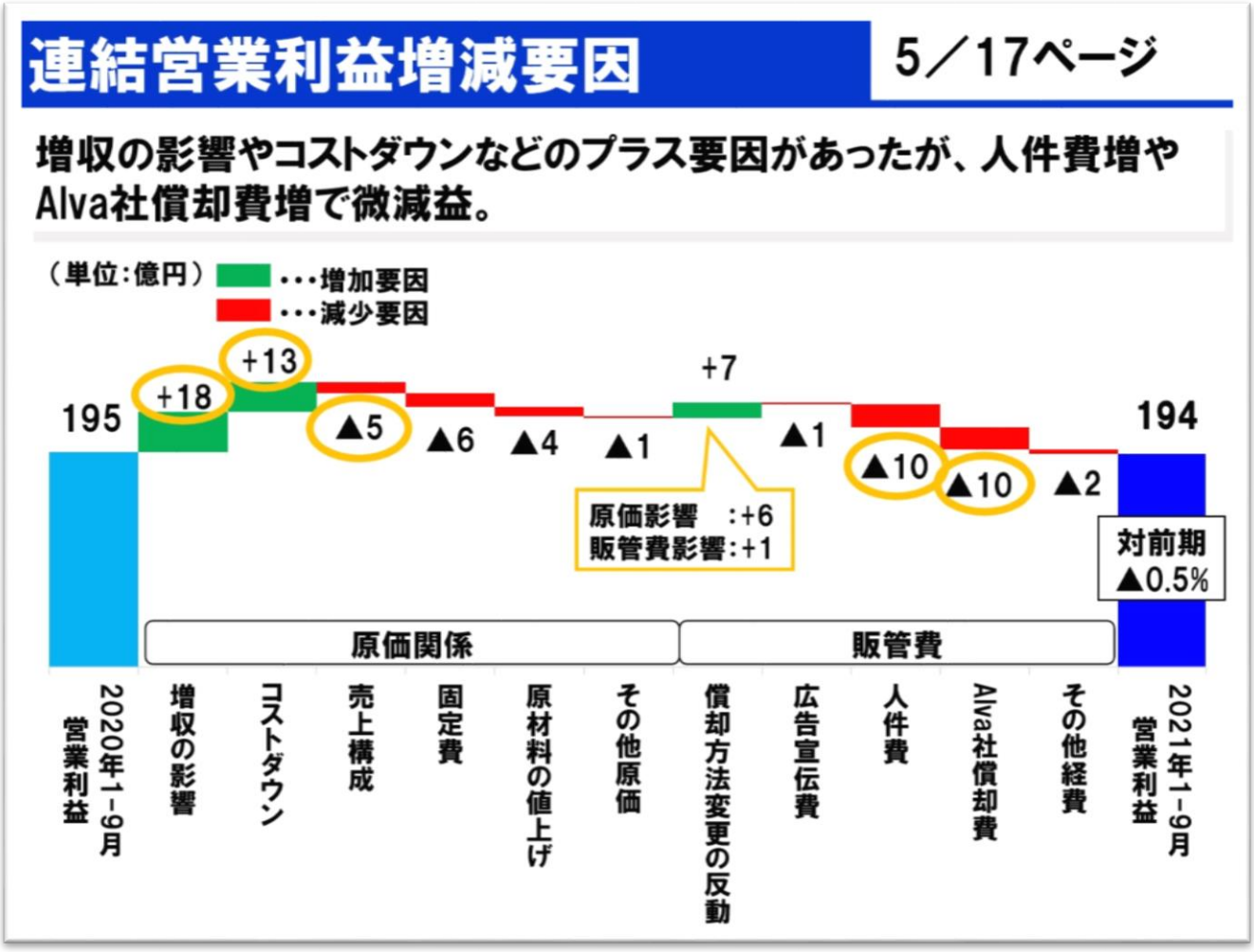
国際事業においても、期初の寒さの影響によりカイロが好調で、全体としては想定以上の結果となりました。昨年買収した米国の Alva 社の売上、利益はその後も順調に推移しております。



続いて３ページをご覧ください。売上と売上総利益率の推移になります。累計で増収に転じ、総利益率も上昇しました。

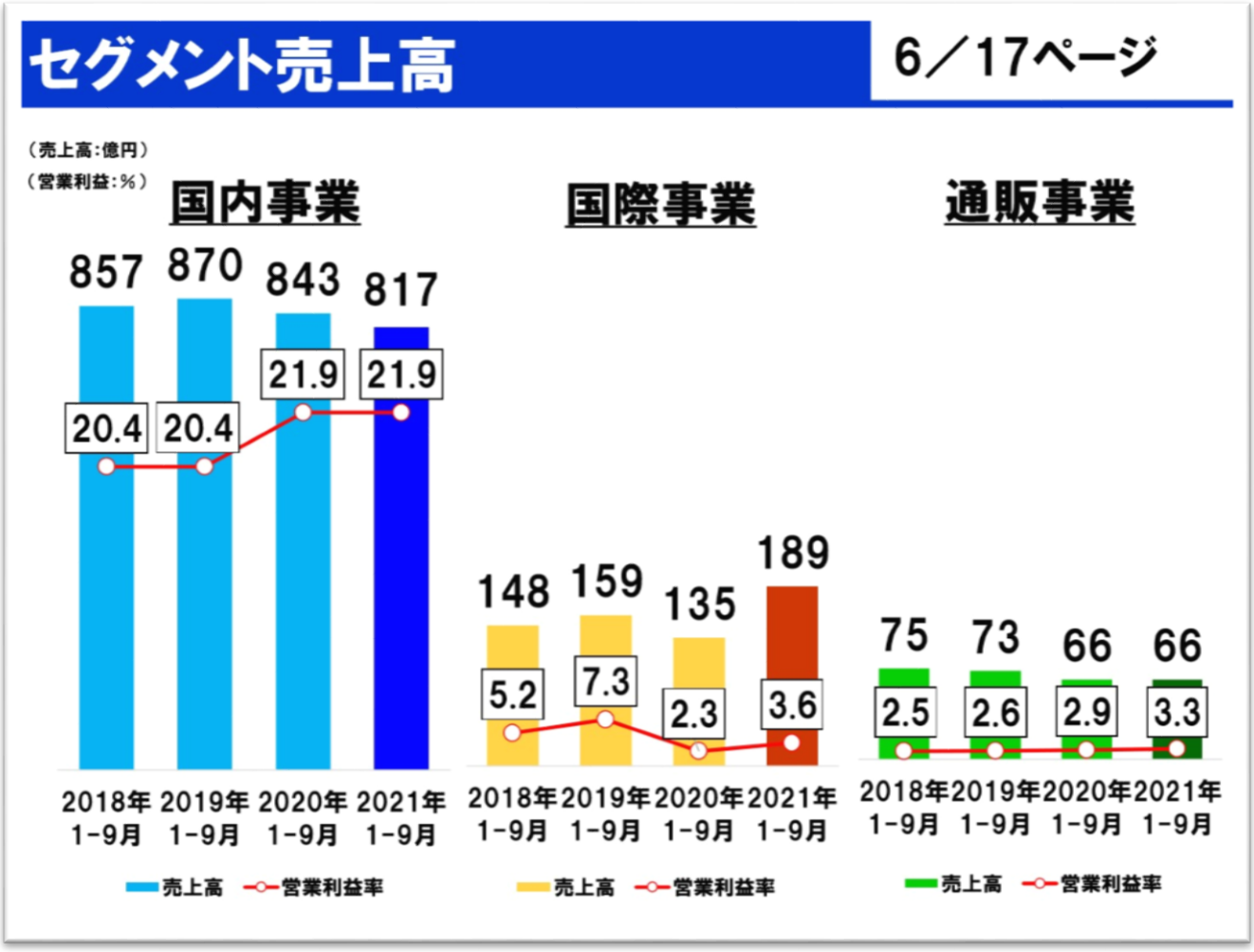


4 ページ目をお願いします。営業利益の推移になります。利益額は微減で、利益率も若干下がっています。その要因は次のページでご説明します。



5 ページ目をお願いします。営業利益の増減要因になります。

グラフのオレンジの丸囲みをご覧ください。左から増収の影響がプラス 18 億円、コストダウンの影響がプラス 13 億円ありました。一方で、国内品と国際品のプロダクトミックスの影響でマイナス 5 億円。加えて Alva 社連結の影響を受けた人件費増、償却費増がそれぞれ 10 億円あったため、全体としては微減となりました。



6 ページ目をお願いします。セグメント別の売上になります。

左側の国内事業のグラフから説明いたします。

国内は、特需反動に加えて、コロナ感染拡大で既存品が幅広く影響を受け、減収となりました。国際は、米国、中国の好調と、Alva 社の連結、カイロの好調で大幅な増収となりました。通販につきましては、ほぼ横ばいとなっております。

国内事業（カテゴリー別売上）　7／17ページ

日用品は除菌・衛生関連品の需要増が昨年より落ち着き減収、カイロは出荷抑制による返品削減と期初厳冬で増収。

	2020年		2021年			
	7-9月	1-9月	7-9月		1-9月	
	金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	対前期（%）	金額（百万円）	対前期（%）
ヘルスケア	14,312	39,686	13,221	▲7.6%	38,984	▲1.8%
日　用　品	13,803	38,156	13,837	+0.2%	35,730	▲6.4%
スキンケア	1,835	5,260	1,749	▲4.7%	5,301	+0.8%
カ　イ　ロ	645	1,199	789	+22.3%	1,693	+41.2%
合　　計	30,595	84,302	29,596	▲3.3%	81,710	▲3.1%

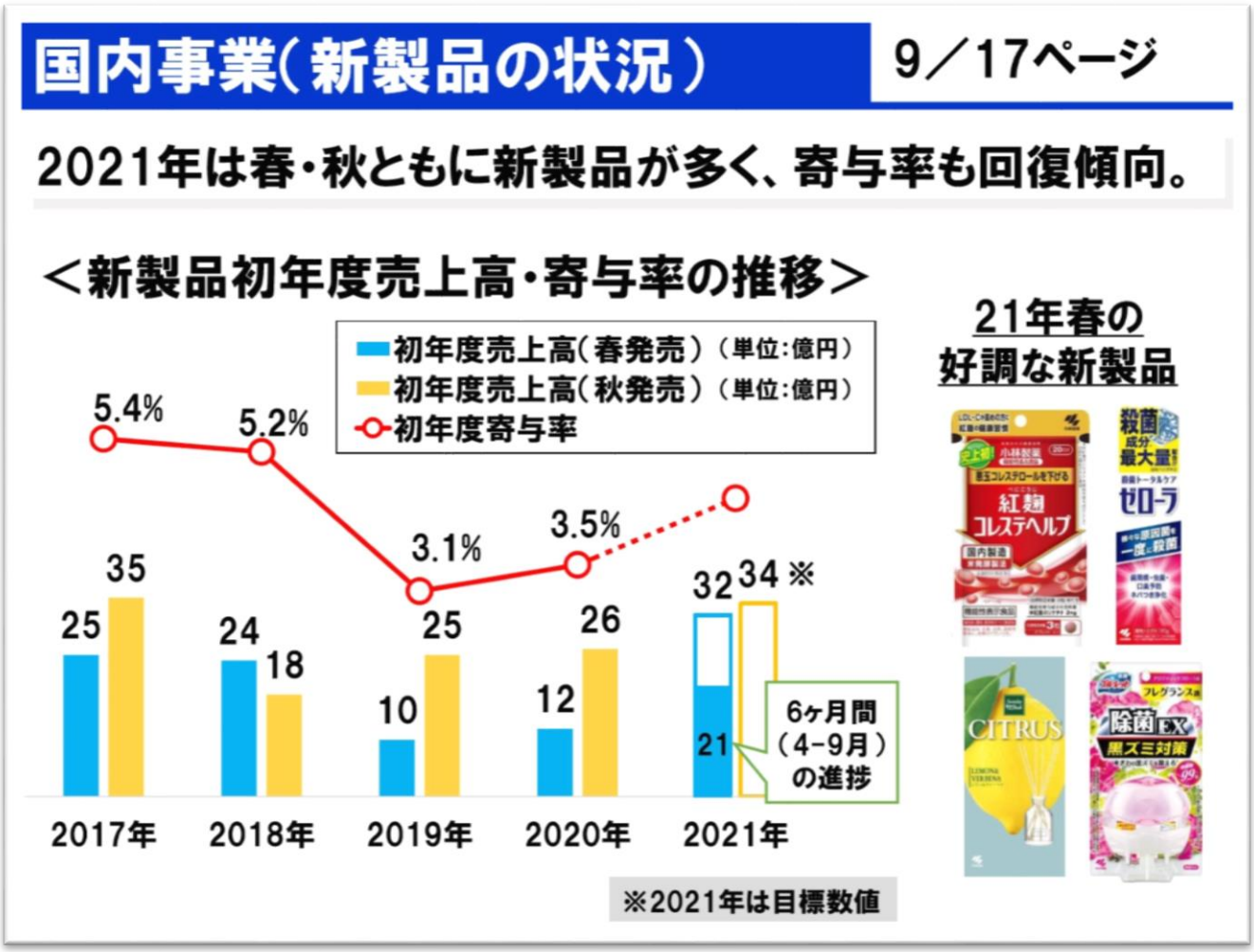
7 ページをお願いいたします。国内事業のカテゴリー別の売上になります。

ヘルスケアは、先ほど申し上げたブレスケアやアルピタン以外にも、昨年の特需の反動による、のどぬ～るスプレーの販売減などの影響が残り、減収となりました。

日用品も、昨年の除菌衛生関連製品の大幅な需要増の反動が響いて減収です。一方で、カイロは 1 月、2 月の寒さの影響で増収となりました。

8 ページをお願いします。国内事業の好調ブランドの一覧になります。

Web や SNS で丁寧にブランドのファン作りを展開した命の母、新製品が貢献した香る Stick、紅麹コレステヘルプや血圧ヘルプ、健脳ヘルプなどの栄養補助食品が好調です。またテレビ番組で取り上げられ話題となったハナノアなども好調に推移しています。



9 ページをお願いします。弊社の課題でありました国内事業の新製品の状況になります。

新製品は過去 2～3 年ほど、開発のハードルを高めたために発売品目が減り、一時的に初年度の新製品寄与率も低下しておりましたが、徐々にテーマ数も増え、開発現場のレベルもアップしてきました。

赤線の棒グラフのように、2019 年には新製品寄与率が 3.1％まで低下しておりましたが、今年は新製品が多く、5％近くにまで回復する見通しです。

青の棒グラフは春の新製品の初年度売上、オレンジは秋の新製品の初年度売上を示していますが、どちらも回復傾向にあることがおわかりいただけると思います。

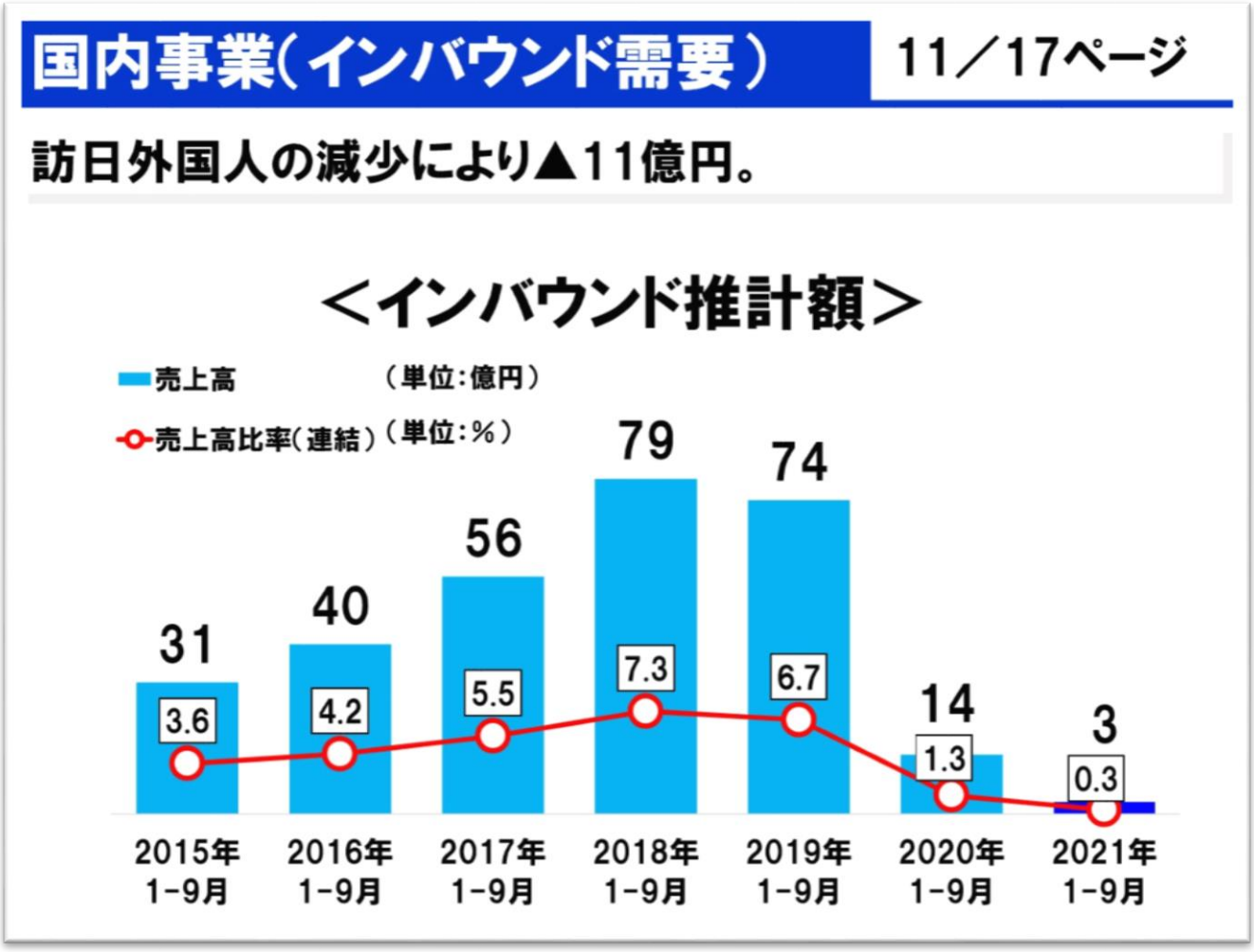
10 ページをお願いします。こちらはコロナ前の 2019 年と比較した、新型コロナによる国内の影響になります。

インバウンドの影響を除き、純粋にコロナの影響だけを見ていますが、傾向としてはこれまでと大きく変わっておりません。

まず需要が増加したものですが、昨年より特需の影響は減少しているものの、引き続きマスクによる肌荒れ、在宅でのトイレ使用増、除菌関連製品、咳に対する配慮などによる増加がありました。

また需要減についても、外出自粛による飲み会減少、風邪、インフルエンザの方の減少による影響であり、傾向は変わりません。

7 月から 9 月には、熱さまシートがワクチン接種の副反応対策として特需がありましたが、これは一時的なもので、影響は限定的だと考えております。



11 ページをお願いします。国内事業のインバウンド需要の推移になります。相変わらずインバウンド需要は戻っておらず、この傾向は当分の間続くと見ております。

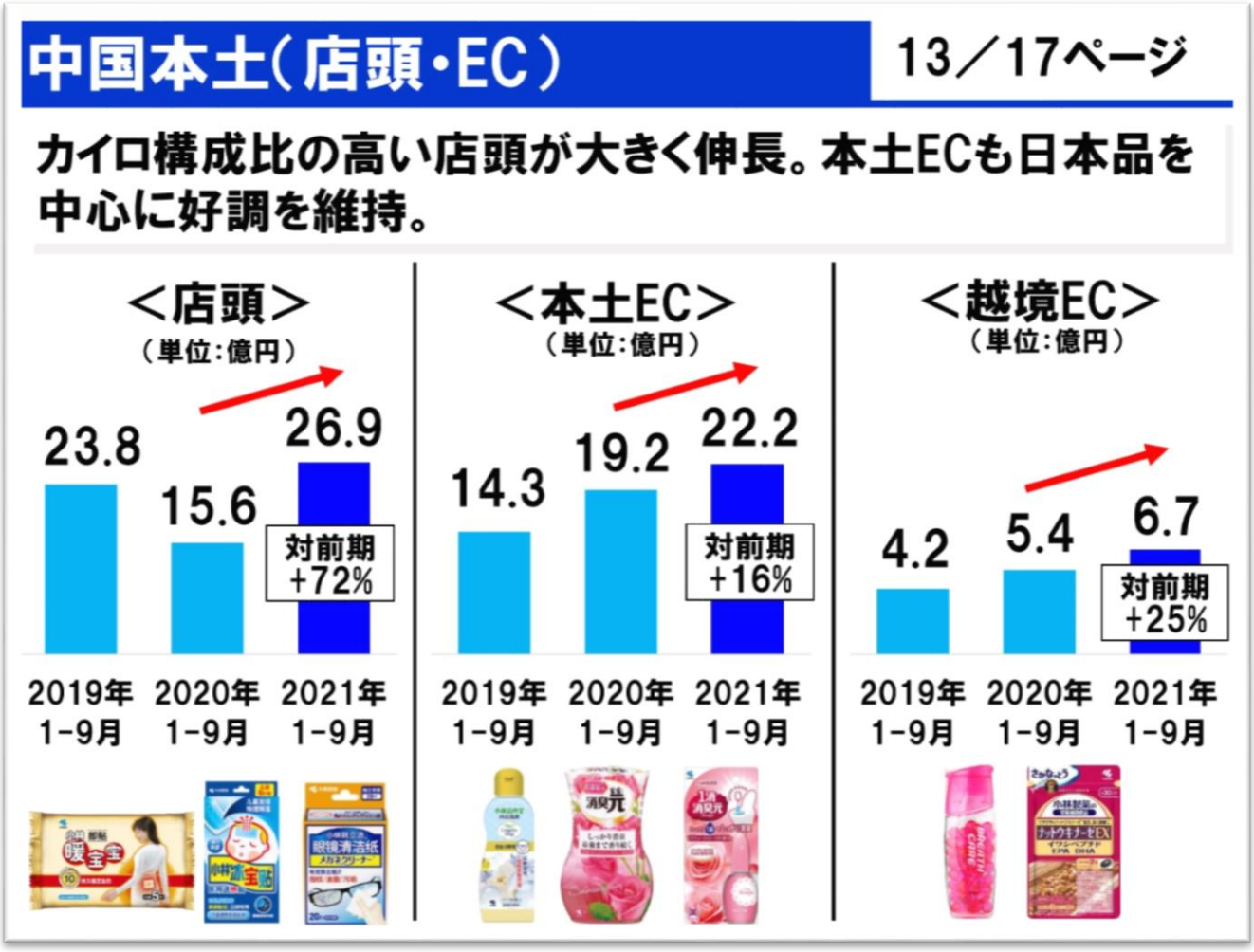
国際事業（地域別業績）　12／17ページ

Alva社の営業利益（のれん償却含む）は▲6.2億円。のれん償却は10.4億円。

		2020年		2021年			
		7-9月	1-9月	7-9月		1-9月	
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	対前期（%）	金額（百万円）	対前期（%）
Alva社含む 売上高	米国	2,653	4,374	4,051	+52.7%	7,875	+80.0%
	中国（本土）	1,604	4,027	2,383	+48.5%	5,592	+38.9%
	（香港）	336	947	465	+38.6%	1,180	+24.6%
	東南アジア	606	2,436	1,207	+99.2%	2,582	+6.0%
	その他	703	1,813	631	▲10.3%	1,713	▲5.5%
	国際計	5,901	13,598	8,738	+48.1%	18,944	+39.3%
	営業利益計	700	319	1,210	+72.9%	686	+114.6%
Alva社除く 売上高	米国	2,653	4,374	3,309	+24.7%	5,536	+26.6%
	国際計	5,901	13,598	7,996	+35.5%	16,605	+22.1%
	営業利益計	700	319	1,484	+112.0%	1,306	+309.4%

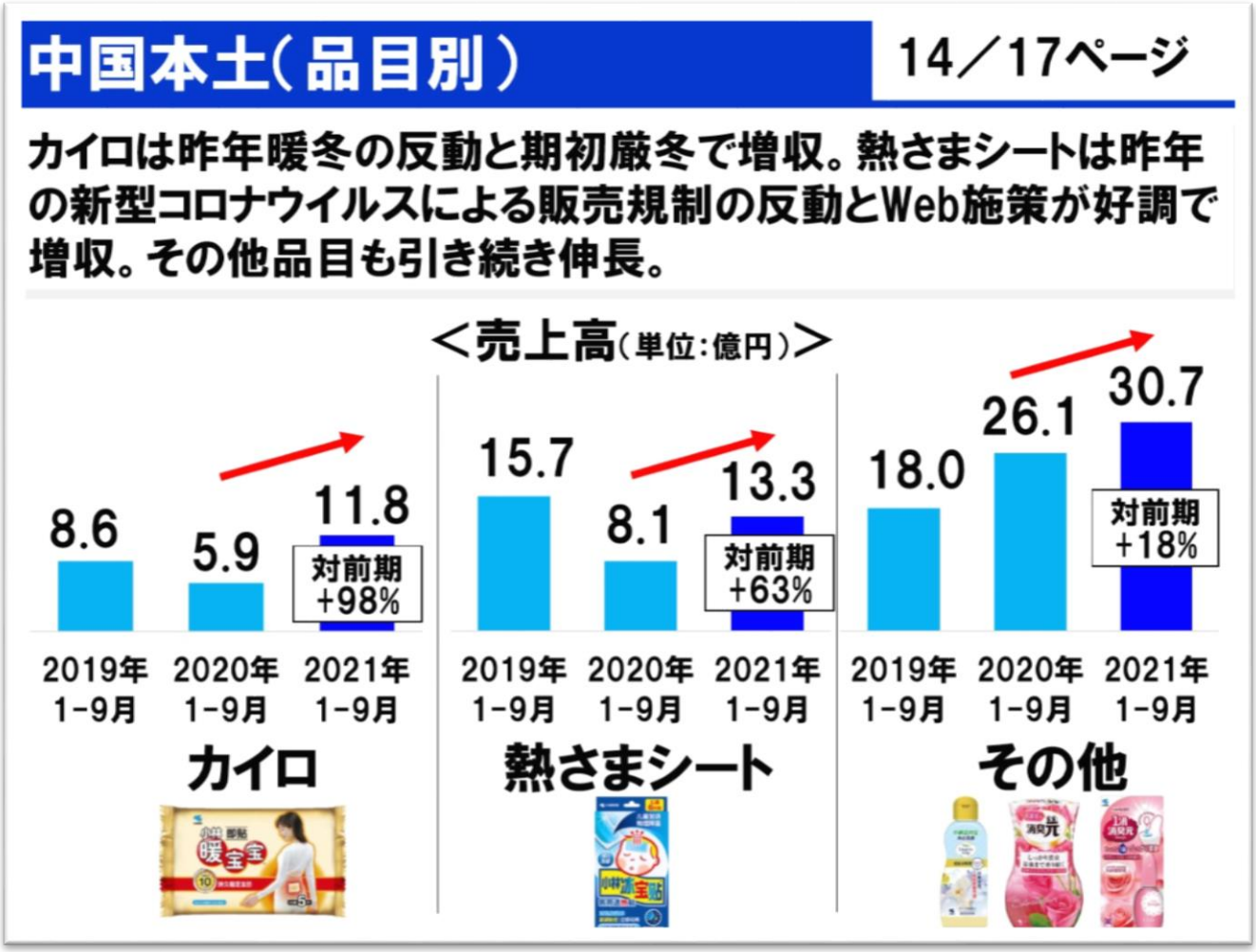
次に 12 ページをお願いします。ここから国際事業についてご説明します。

7 月から 9 月の 3 カ月はご覧のように各国で好調となっています。1 月から 9 月の累計でも 39%の増収となりました。また営業利益も Alva ののれん償却の影響がありながらも、増収影響が大きく、増益となりました。Alva を除いて試算しましても、国際事業の売上は 22%の増収となり増益となりました。



13 ページをお願いします。中国本土の店頭、EC の売上状況になります。左のグラフから順に説明いたします。

店頭は、カイロと熱さまの構成が高く、この 2 ブランドが大きく伸びているため、対前期プラス 72％となっています。本土 EC も引き続き、ランジェリー洗剤や芳香剤などが好調を維持しています。また越境 EC も、売上はまだ小さいものの、サプリが好調で対前期でプラス 25％となっています。



14 ページをお願いします。こちらは中国本土の品目別売上比較になります。これも左から順にご説明いたします。

カイロは昨年暖冬の反動に加え、期の初めの寒さが厳しく、流通在庫が減っていたので、今シーズンの出荷も好調です。

熱さまシートは、昨年コロナによる規制を受けた影響がありましたが、今年は回復し、Web を中心としたマーケティングも上手くいっており好調です。その他につきましても引き続き好調となっております。

15 ページをお願いいたします。こちらは米国の Alva 社の状況になります。

11 月から 7 月の 9 ヶ月が連結されておりますが、前年から売上が 4%ほど伸ばせており、好調に推移しております。これは Alva 社が持っていたユニークなコンセプトの既存製品に対して、小林流の広告がフィットしたからです。

例えば、写真の右側の FUNGI CURE は爪水虫に対処する薬なのですが、このミストタイプのスプレーは市場で唯一の商品で、大変ユニークなものとなっています。そこで今期に入って最初の冬に、小林流のわかりやすい TV 広告をしました。これによって、冬の新需要を引き起こし、販売が伸びました。

2021年12月期連結業績予想　16／17ページ

	2020年12月期実績	2021年12月期業績予想		
	金額(億円)	金額(億円)	対前期(%)	利益率(%)
売上高	1,505	1,560	+3.6%	-
営業利益	259	260	+0.2%	16.7%
経常利益	277	278	+0.3%	17.8%
当期純利益	192	195	+1.5%	12.5%
EBITDA ※	300	310	+3.2%	19.9%
EPS	245.71円	249.48円	-	-
ROE	10.8%	10.3%	-	-
ROIC	10.1%	9.5%	-	-

※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

16 ページをお願いします。今期末の連結業績予測になります。

第 3 四半期決算は、連結ではほぼ想定どおりであり、公表数値についても、今後の気温次第ではありますが、十分に目指せる水準だと考えています。引き続き通期目標を達成できるよう努力してまいります。

株主還元

17／17ページ

自己株式取得の決議
（2021年10月28日発表）

・取得株式総数：100万株（上限）
（発行済株式総数（自己株式を除く）の1.28％）

・取得株式総額：80億円（上限）

・取得期間　：2021年11月1日から2022年6月23日

・理由　：株主への一層の利益還元と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するため

最後に 17 ページです。100 万株、もしくは 80 億円を上限とし自己株式の取得を決定いたしました。今後も連続増配を基調とした株主還元策を強化していき、自己株買いについても ROE を意識しながら機動的に実施してまいります。

そして引き続き、たくさんの「あったらいいな」の新製品を生み出し続け、社会とお客様の生活改善に貢献していきたいと思っております。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。